

食害防止チューブ(単木保護資材)三つの条件

I. 『苗木の生長を阻害しないため上部は常時開口し チューブ内は空間を常に保持する事』



【上部が常に開口しチューブ内に空間が保たれている】 【上部が折れ曲り開口部を塞いでいる状態】

食害防止チューブは野生動物から苗木の食害を防ぐため3～5年間狭いチューブの中で保護しなければなりません。狭い空間の中で順調に生育させるために常にチューブ内は空間を保つ必要があります。また、植栽木の樹高がチューブを越える程度に生長した場合、上部が常に開口していなければ生長を阻害し幹の捻転等の樹形異常や枯死の原因になります。食害防止チューブは、特にこの点の注意が必要になるため支柱を両側に2本設置するのが基本です。

**幼齡木ネット&チューブラーは直径約 25 cm(業界最大級)を規格化し、
通常 2本の支柱で空間を保持する仕様を、支柱 1本でこの点を解消した製品です。**